

仁術の士モーリス・ルヴェルは稀代の短編作家である。面桶に慈悲を待つ輩、淪落の尤物や永劫の闇に沈みし者、澆季に落涙するを、或いは苛烈な許りに容赦なく、時に一抹の温情を刷き、簡勁の筆で描破する。白日の魔を思わせる硬質の抒情は、鬼才の名にそぐわしい極上の飴饗である。加うるに田中早苗の訳筆頗る流綺。禍棗災梨を憂える君よ、此の一書を以て萬斛の哀惋を掬したまえ。